


青森県立高等学校将来構想検討会議  
におけるこれまでの検討状況  
(中間まとめ) に関する地区懇談会



～青森県の未来を担う子どもたちが  
夢や志の実現に向け成長できる高校教育のために～

**【下北地区】 8月24日（月） 18：00～19：30**

むつ来さまい館 イベントホールB

**【西北地区】 8月25日（火） 18：00～19：30**

つがる市生涯学習交流センター「松の館」交流ホール

**【上北地区】 8月26日（水） 18：00～19：30**

十和田市商工会議所会館 5階大会議室

**【東青地区】 8月28日（金） 18：00～19：30**

青森県立図書館 4階集会室

**【三八地区】 8月31日（月） 18：00～19：30**

八戸市福祉公民館 2階大会議室

**【中南地区】 9月 2日（水） 18：00～19：30**

弘前市立中央公民館岩木館 大ホール



# 本日の説明内容

## 1 はじめに

- (1) 検討の背景
- (2) 将来構想検討会議の設置

## 2 青森県立高等学校将来構想検討会議 中間まとめ(概要)

- (1) これからの本県高校教育に求めること
  - ① これからの時代に求められる力
  - ② 各学校の特色を生かして育成すべき人材
  - ③ 「オール青森」の視点による検討
- (2) これからの高校の在り方
  - ① 高校教育を受ける機会の確保
  - ② 充実した教育環境の整備
  - ③ 学校配置に向けた新たな取組
- (3) 今後の中学校卒業予定者数の推移等（各地区）
- (4) 魅力ある高校づくりに向けて

## 3 将来構想検討会議の今後の予定

# 1 はじめに



# (1) 検討の背景 — これまでの高校教育改革の取組

生徒の多様な進路志望への対応 …

総合学科<sub>※1</sub>の拡充

全日制普通科単位制<sub>※2</sub>の導入

総合選択制<sub>※3</sub>の導入

中高一貫教育の導入

学科の再編・整備

生徒数減少への対応 …

学級数の削減

校舎制<sub>※4</sub>の導入

計画的な統合

※1 総合学科 … 幅広い選択科目の中から生徒の主体的な選択による学習を通して、将来の生き方や進路に関する自覚を深め、職業観を育成することを目指す学科

※2 単位制 … 学年による区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる制度

※3 総合選択制 … 複数の学科を有する高校において、所属する学科の学習を基本としながら、学科の枠を超えて主体的に教科・科目を選択履修できる制度

※4 校舎制 … 法的には分校。本校との連携・協力により教育内容の充実に努める制度

## グローバル化・情報化等による社会の急速な変化



### 子どもたちが将来就くことになる職業

◎65%の子どもたちが、今は存在していない職業に就く

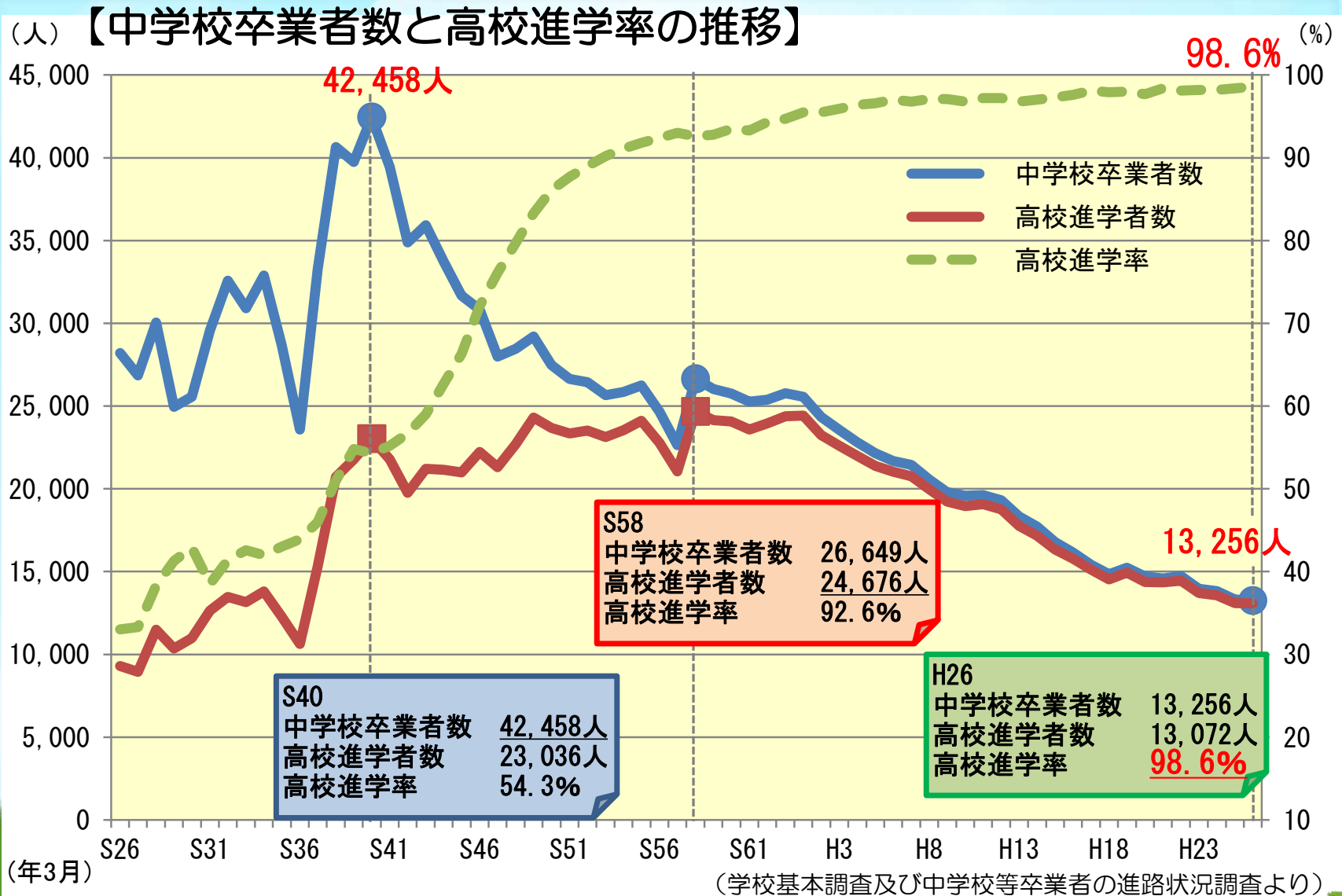
（キャシー・デビッドソンの予測）

◎今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い

（オズボーンの予測）

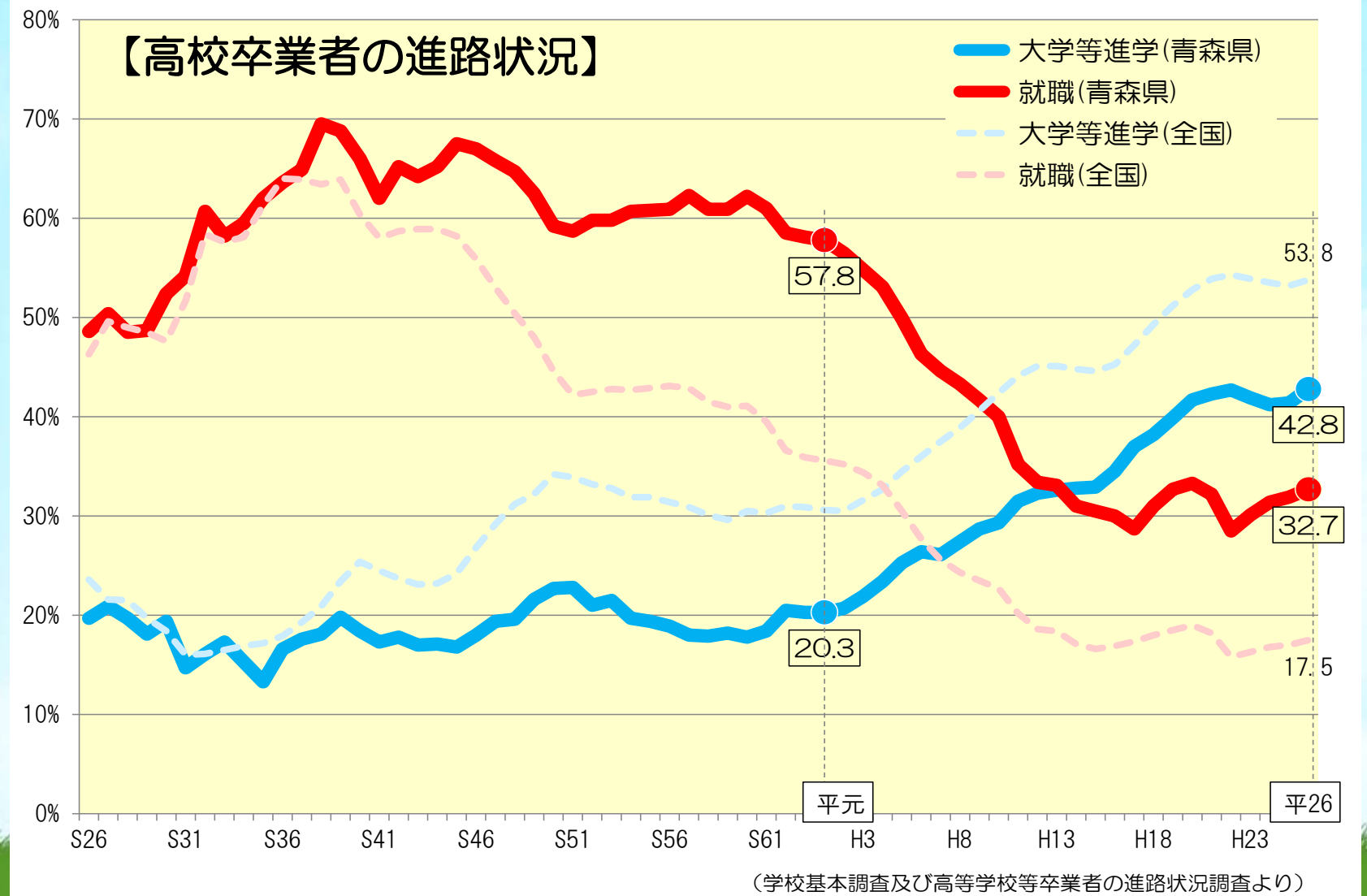


# (1) 検討の背景 — 生徒の多様化



高校進学率は98.6%となり、中学校卒業生のほとんどが高校へ進学

# (1) 検討の背景 — 生徒の多様化



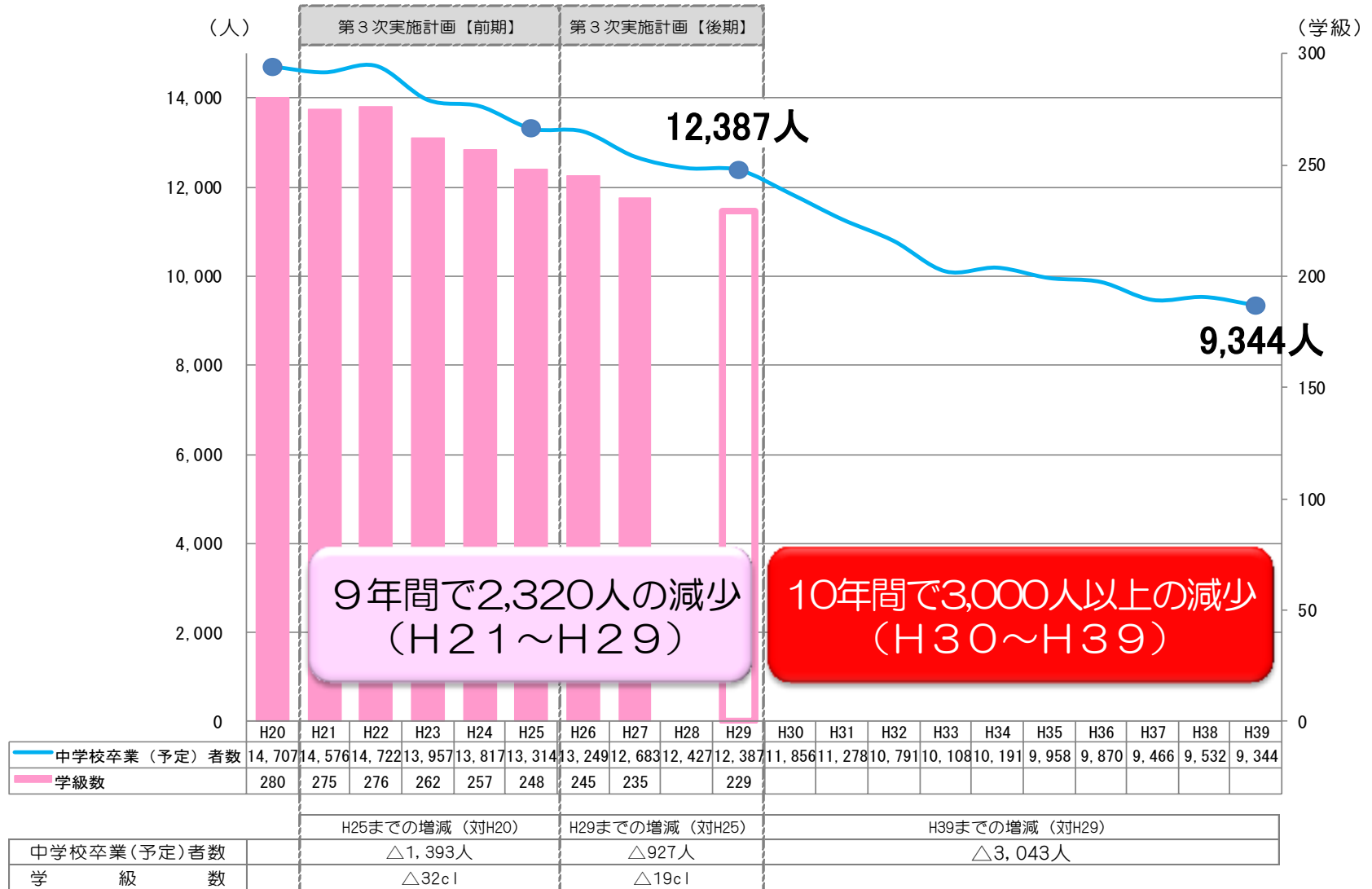
平成13年に大学等進学と就職が逆転し、平成26年には大学等進学が42.8%



# (1) 検討の背景 — 生徒数の減少

(中学校卒業(予定)者数と学級数の推移)

※ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



県立高等学校教育改革第3次実施計画期間の中学校卒業予定者数 → 2,320人減少  
 第3次実施計画終了後の10年間の中学校卒業予定者数 → 3,000人以上減少



## (2) 将来構想検討会議の設置 — 新たな検討の必要性

### 国の主な制度改正

学習指導要領等の改善

大学入学者選抜制度改革等



- 全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力
- 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等
- 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

### 2030年における青森県のめざす姿

〈青森県教育振興基本計画〉  
(平成26～30年度)

- 夢や志の実現に向かって挑戦する青森県民
- 人が育ち、磨かれ、活躍する青森県

等



子どもたちが夢や志の実現に向けて、自らの人生を切り拓き、他者と助け合いながら幸せな暮らしを営むことのできる力を育むための高校の在り方について、中・長期的な展望に立って検討



## (2) 将来構想検討会議の設置 — 検討の進め方

### 青森県立高等学校将来構想検討会議

#### ■委員構成 (25人)

大学関係者、産業界関係者、PTA関係者、報道関係者、市町村教育委員会関係者、中学校関係者、高校関係者等

#### 第1分科会(11人)

##### ■検討内容：

1 社会の変化や生徒の多様な進路志望に対応した学校・学科の在り方について

#### 第2分科会(12人)

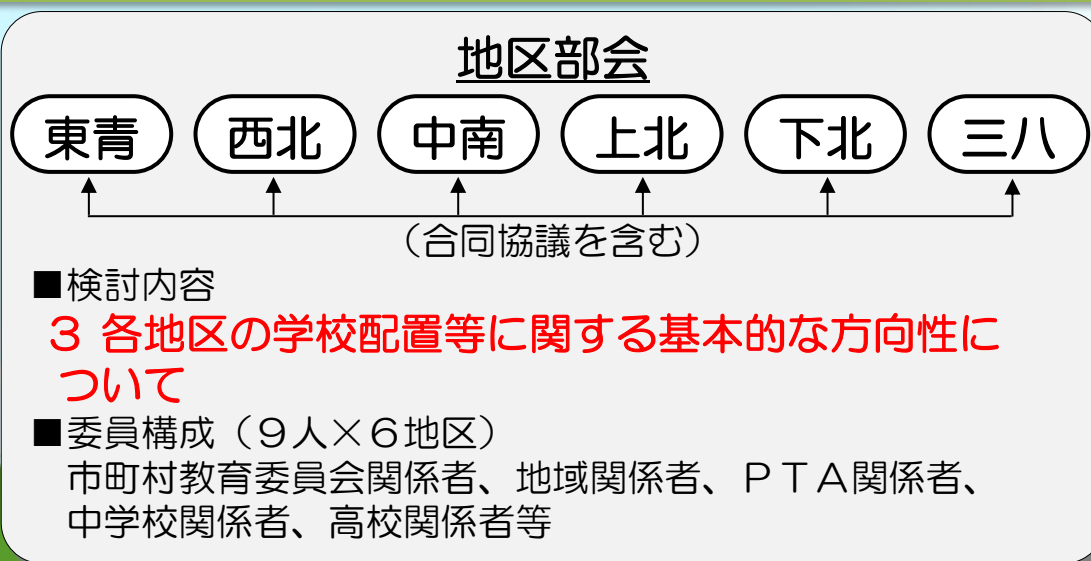
##### ■検討内容：

2 夢や志の実現に向けた教育活動に必要な高等学校の規模・配置について

#### 第1分科会 専門委員

##### ■委員構成 (9人)

行政関係者、  
高校関係者等



#### 第2分科会 専門委員

##### ■委員構成 (5人)

行政関係者、  
高校関係者等

平成26年6月12日 諮問

平成27年7月27日 中間まとめ

## 2 青森県立高等学校将来構想検討会議 中間まとめ(概要)



# (1) これからの本県高校教育に求めること

## ① これからの時代に求められる力

### 生きる力

#### 確かな学力

- 基礎的・基本的な知識・技能
- 基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力
- 主体的・協働的に学習に取り組む意欲

#### 豊かな心

- 公共心、倫理観、他者への思いやり、自己肯定感等

#### 健やかな体

- 社会で自立して活動するために必要な健康や体力等

### 本県が重視する力

#### 逞しい心

- 夢や志を持ち、より高い目標に向かって果敢にチャレンジする「逞しい心」

#### 学校から社会への円滑な移行に必要な力

- 他者との信頼関係を築きながら課題を解決するために必要なコミュニケーション能力、責任感等

#### 郷土に誇りを抱き、青森県の未来を力強く支えようとする心

- 国際的視野を持ちながら、本県の歴史・文化の価値、自然や産業の持つ魅力の理解を通して育む本県の未来を支えようとする心



# (1) これからの本県高校教育に求めること

## ②各学校の特色を生かして育成すべき人財

### 各学校の役割の明確化

市民性を身に付け  
地域の担い手として  
地域社会を支える人財<sup>※5</sup>を育成

自ら課題を見出し  
高度な知識・技能  
を用いて解決への  
道を切り拓く力を  
身に付け、社会を  
牽引する人財を育成

より専門的な知識  
・技能を身に付け  
地域社会や産業の  
発展に貢献する人  
財を育成

※5 人財 … 青森県では「人は青森県にとっての『財（たから）』である」ことを基本的な考え方としており、「人材」を「人財」と表記している。



# (1) これからの本県高校教育に求めること

## ③ 「オール青森」の視点による検討

少子化に伴う高校の小規模化等の課題を、  
**高校の在り方について根本から見つめ直すチャンス**  
ととらえ、  
一つの学校、一つの地域という視点だけではなく、  
学校と学校、学校と産業界、学校と地域等、  
県全体が連携して取り組む  
**「オール青森」の視点を重視**

## (2) これからの高校の在り方

検討に当たっての2つの観点

これからの時代に求められる力を  
生徒一人一人が身に付けるため…

### (1) 高校教育を受ける機会の確保

中学生それぞれの志に応じた高校や学科等を選択できる環境

### (2) 充実した教育環境の整備

より特色ある教育活動の実践、本県高校教育の質の維持・向上

2つの観点を考慮



## (2) これからの高校の在り方

### ① 高校教育を受ける機会の確保

#### 各地区における中学生の進路の選択肢の確保

大学等への進学  
や就職等より幅  
広い進路選択に  
対応する高校

選抜性の高い  
大学への進学  
に対応する  
高校

職業教育の  
中心となる  
高校

複数の学科を有し幅広い学びの選択肢となり得る高校



## (2) これからの高校の在り方

### ① 高校教育を受ける機会の確保

#### 通学環境への配慮

- ◆ 地理的な要因から高校に通学することができない地域が新たに生じることのないよう配慮
- ◆ 通学が可能な範囲は、公共交通機関の利便性やスクールバスの運行状況等により変わり得る
- ◆ 市町村等との連携を含め、生徒の通学環境の充実について検討



○ 他の高校への通学が困難な地域がある場合には、  
高校教育を受ける機会の確保の観点から、**柔軟な配置に配慮**



## (2) これからの高校の在り方

### ②充実した教育環境の整備 ー 普通科等

#### 【普通科等の方向性】

- 選抜性の高い大学への進学対応、高校卒業後の就職対応等、幅広い教育を提供する役割
- グローバル教育・理数教育・医学部医学科進学等に重点的に取り組む学校や、地域の実態に根ざした教育活動に取り組む学校など各高校の特色化

### 重点校

選抜性の高い大学への進学に対応した取組

+

今後求められる人財の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割  
(医師や弁護士等の高度な国家資格の取得に向けた志を育成する取組、  
グローバル教育や理数教育等の特定分野の学習における先進的な取組等)





## (2) これからの高校の在り方

### ②充実した教育環境の整備 ー 普通科等

#### 【重点校】

医学部医学科進学に対応  
できる教科・科目の指導

先進的な理数教育により  
生徒の創造性・独創性を  
高める教育課程の編成

講習会・講演会・  
擬似手術体験セミ  
ナー等への参加

講演会・研究成果  
発表会等への参加

指導法等に関する教員の  
連絡会議への参加

公開授業・研究  
協議会への参加

- ・ 医師、弁護士等の高度な国家資格の取得に向けた志の育成
- ・ 青森、日本、世界の将来を担うリーダーの育成 等

※重点校においては、単位制や併設型中高一貫教育の導入についても検討。

## 普通科等の重点校のイメージ



## (2) これからの高校の在り方

### ②充実した教育環境の整備 ー 職業教育を主とする専門学科

#### 【職業教育を主とする専門学科の方向性】

- 産業界で必要な専門知識や技能が高度化、産業の複合化  
→ 職業の多様化に対応できる資質・能力、学び続ける態度
- 大学進学希望者の増加への対応
- 各専門分野の幅広い学習内容を提供する高校の設置、各校が連携する体制の構築

#### 拠点校

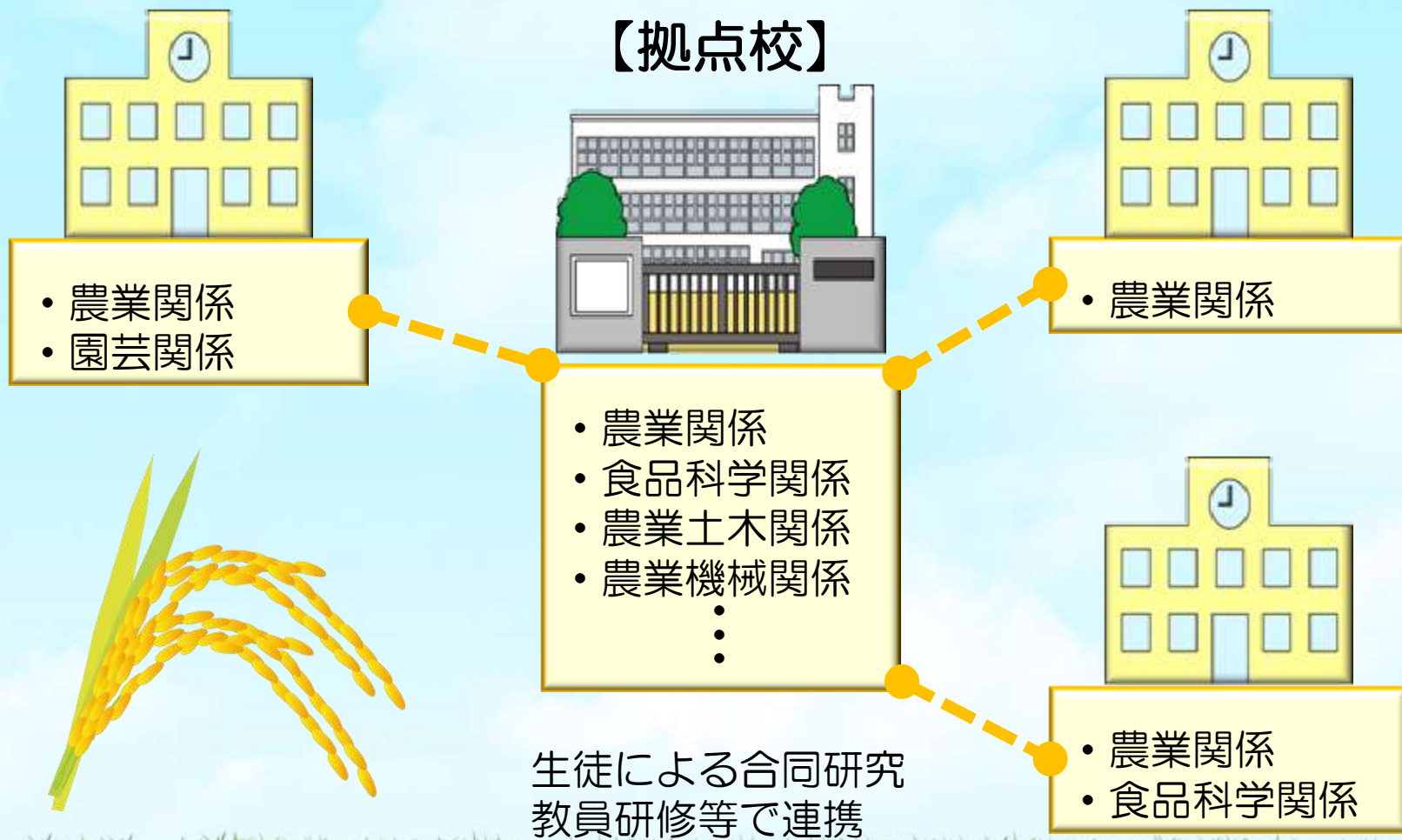
- ◆特定の学科における専門科目を幅広く学ぶことのできる学校
- ◆各学科における基礎的・基本的な知識・技能を習得
- ◆専門的な学習の深化



## (2) これからの高校の在り方

### ②充実した教育環境の整備 ー 職業教育を主とする専門学科

#### 【拠点校】



職業教育を主とする専門学科の拠点校のイメージ  
(農業科)

## (2) これからの高校の在り方

### ②充実した教育環境の整備 ー 総合学科

#### 【総合学科の方向性】

- 普通科等、職業教育を主とする専門学科に並ぶ選択肢として、大学進学志望者や就職志望者に対応できる教育課程を編成

1  
年次

#### 「産業社会と人間」<sup>※6</sup>

入学後の早い段階から自己の生き方や進路について多面的に考え、学習に取り組む意欲や態度を育成

2 3  
年次 年次

#### 「課題研究」

課題解決型学習への取組により、これからの時代に求められる力を育成

- ◆生徒のニーズを踏まえた系列<sup>※7</sup>の見直し
- ◆多様な選択科目の開設

主体的な学習の  
さらなる充実

※6 産業社会と人間 … 産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資するよう、就業体験等の体験的な学習や調査・研究などを行う学校設定科目。総合学科においては、1年次に全生徒が履修する。

※7 系列 … 生徒の科目選択の参考になるように関連する科目をまとめたもの（総合選択科目群）

## (2) これからの高校の在り方

### ②充実した教育環境の整備 — 学校規模

◆各高校では、生徒数が減少する中であっても、それぞれの役割に応じた人財育成に向け、特色ある教育活動を充実させ、本県高校教育の質の維持・向上を図る。



#### 各高校に求められる教育環境の整備

- 進路志望達成のために必要な教科・科目の開設
- 課題発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆるアクティブラーニング）による教育実践
- 学校行事をはじめとする特別活動等の充実や多様な部活動等の選択肢を確保



## (2) これからの高校の在り方

### ②充実した教育環境の整備 — 学校規模

(学校規模による開設科目数の違い)

地理歴史・公民の 開設科目 (普通科の学校)	世界史 A	世界史 B	日本史 A	日本史 B	地理 A	地理 B	現代社会	倫理	政治・ 経済
1学級規模	○		◇		◇		◎		
2～3学級規模	○		◇	○	◇	△	◎		◇
4～5学級規模	◎	○	◎	○	◎	◇	◎	◇	○
6～7学級規模	◎	○	◇	◎	◇	◎	◎	◇	○

理科の開設科目 (普通科の学校)	物理基礎	物理	化学基礎	化学	生物基礎	生物	地学基礎	地学	科学と 人間生活
1学級規模			◎	◇	◎				◎
2～3学級規模	○	◇	◎	○	◎	○			△
4～5学級規模	◎	○	◎	◎	◎	○			◎
6～7学級規模	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◇		

「◎」… 全校で開設、「○」… 3/4以上の学校で開設、「◇」… 1/2以上の学校で開設、「△」… 1/3以上の学校で開設

(平成26年度学校要覧を基に高等学校教育改革推進室において作成)





## (2) これからの高校の在り方

### ②充実した教育環境の整備 — 学校規模

(学校規模による部活動設置数の違い)

	運動部																	平均設置部数	
	硬式野球	陸上競技	バスケットボール	バレーボール	テニス	ソフトテニス	ハンドボール	ソフトボール	バドミントン	卓球	サッカー	ラグビー	剣道	柔道	弓道	空手道	水泳		フェンシング
1学級規模	◇		◇	◇					○										3.3部
2～3学級規模	◎	○	○	○	◇				◇	◇	△				◇				7.8部
4～5学級規模	◎	◎	◎	◎	◇	○		◇	○	○	◎		○	○				◇	12.0部
6～7学級規模	◎	◎	◎	◎	◎	◇	△	○	○	○	◎	△	○	◇	○	◇	○		15.6部

	文化部																	平均設置部数	
	書道	美術	写真	茶道	華道	音楽	吹奏楽	演劇	JRC	放送	文学	家庭・家政系	自然科学等	囲碁・将棋	パソコン等	商業・簿記等			
1学級規模		◇		○			◇					△							3.5部
2～3学級規模				△			◇								△				4.3部
4～5学級規模	◎	○	◇	◇		◇	○	◎	○	◇						◇			9.5部
6～7学級規模	○	◎	◇	○	◇	△	◇	○	◇	◇	○		◇	△					11.8部

「◎」… 全校で設置、「○」… 3/4以上の学校で設置、「◇」… 1/2以上の学校で設置、「△」… 1/3以上の学校で設置

(平成26年度学校要覧を基に高等学校教育改革推進室において作成)

生徒数によって、開設できる科目数や部活動数に違いがあり、生徒の希望に応じた活力ある教育活動のためには、一定以上の規模が求められる。





## (2) これからの高校の在り方

### ②充実した教育環境の整備 — 学校規模

#### 学校規模の標準（1学年あたり）

##### ① 基本となる学校

4学級（160人）<sup>※8</sup>以上

##### ② 重点校

6学級（240人）以上

##### ③ 拠点校

1つの専門学科で  
4学級（160人）<sup>※8</sup>以上

※8 4学級（160人以上） … 1学級の定員を35人とする学級編制の弾力化を実施している学校にあっては140人以上

①～③を満たさない高校であっても、他の高校への通学が困難な地域が生じる場合は、柔軟な配置に配慮

## (2) これからの高校の在り方

### ②充実した教育環境の整備 — 定時制課程・通信制課程

働きながら学ぼうとする青少年を含め、全日制課程に通学することが困難な事情を抱える青少年に高校教育を受けられる機会を提供する制度



#### 【定時制課程・通信制課程の方向性】

- ・全日制課程からの転・編入学者
- ・中学校までの不登校経験者 等

様々な事情を抱えた生徒に広く学びの機会を提供する役割

#### 定時制課程

スクールソーシャルワーカー等の配置

#### 通信制課程

後期入学制度<sup>※9</sup>の導入  
等

※9 後期入学制度 … 単位制高校において、年度当初に加え、年度中途に選抜を行い、入学を許可する制度

## (2) これからの高校の在り方

### ③学校配置に向けた新たな取組

# 高校教育を受ける機会の確保のため 柔軟な配置に配慮する高校

入学者数が極めて少ない状況となった場合等には、  
高校教育として求められる質の確保に支障が生じる  
懸念



○募集停止等に関する**具体的な基準**をあらかじめ示し、関係市  
町村等の理解を得ながら検討

○募集停止等の場合、**通学支援等**について検討  
(例) スクールバスの運行、通学費補助（奨学金を含む）、寄宿舍の設置等



## (2) これからの高校の在り方

### ③学校配置に向けた新たな取組

#### 計画的な統合

役割に応じた規模の高校を配置 → 計画的な統合等が必要

#### 《協議会等》

必要に応じて地域の意見を伺う協議会等を設置  
→ 市町村等地域関係者と連携・協力の下、検討

#### 《開設準備委員会（仮称）》

統合校の新たな名称、目指す生徒像や教育内容等を検討

「オール青森」の視点を重視

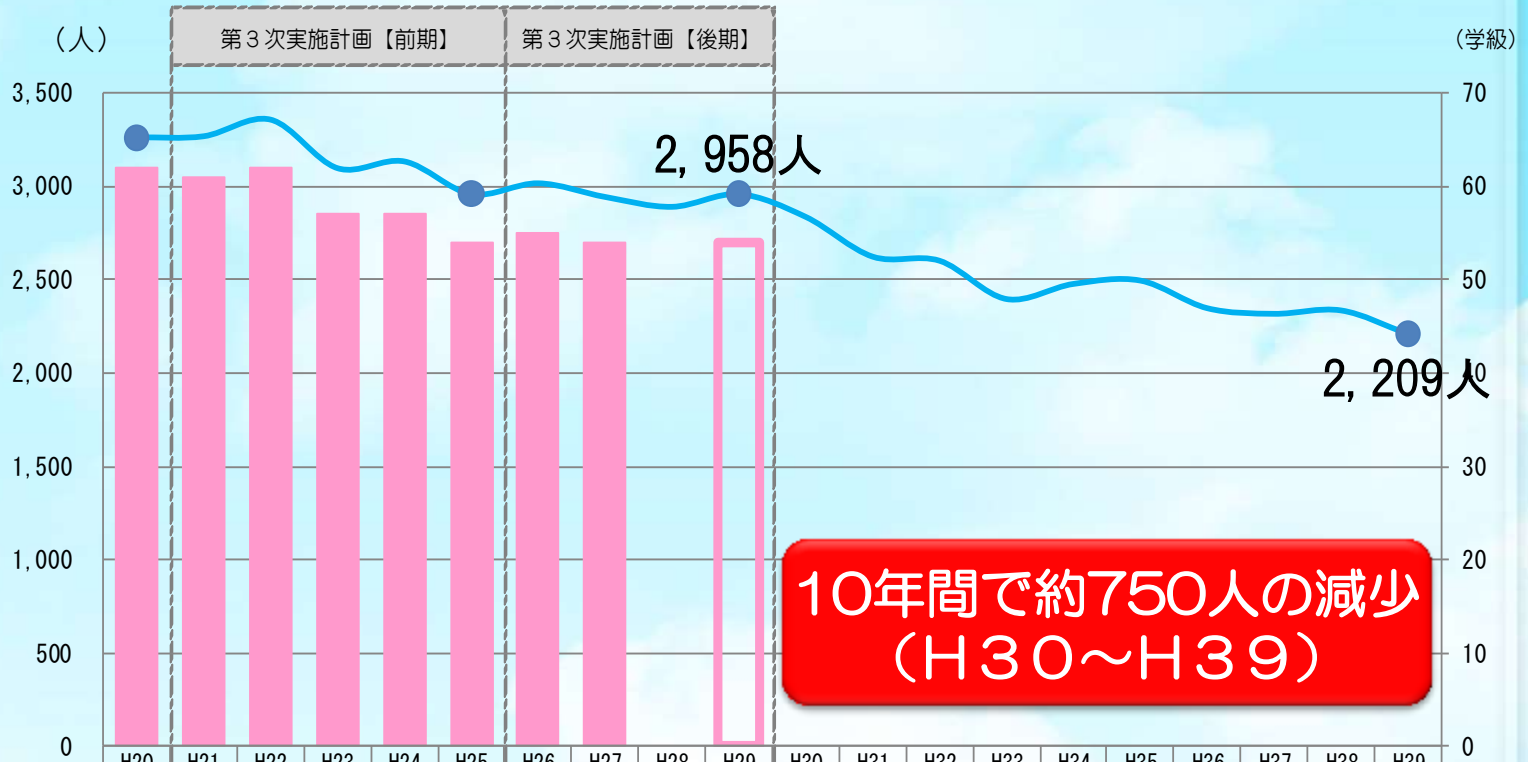


# (3) 今後の中学校卒業予定者数の推移等 (各地区)

## 【東青地区】①

(中学校卒業 (予定) 者数と学級数の推移)

※ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



10年間で約750人の減少  
(H30~H39)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
— 中学校卒業 (予定) 者数	3,262	3,268	3,357	3,097	3,133	2,958	3,016	2,943	2,890	2,958	2,836	2,623	2,601	2,396	2,477	2,495	2,347	2,317	2,335	2,209
■ 学級数	62	61	62	57	57	54	55	54		54										
	H25までの増減 (対H20)						H29までの増減 (対H25)				H39までの増減 (対H29)									
中学校卒業(予定)者数	△304人						0人				△749人									
学級数	△8CL						0CL				△13CL~△15CL									





# (3) 今後の中学校卒業予定者数の推移等 (各地区)

## 【東青地区】②

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出した。

(各学校の規模の推移)

■ 普通科等 ■ 職業学科 ■ 総合学科

学校名	平成20年度			平成25年度			増減	平成29年度 (第3次実施計画より)			増減
	学級数	募集人数	4c1 6c1	学級数	募集人数	4c1 6c1		学級数	募集人数	4c1 6c1	
青森	7	280	40 40 40 40 40 40 40	7	280	40 40 40 40 40 40 40	0	7	280	40 40 40 40 40 40 40	0
青森西	6	240	40 40 40 40 40 40	6	240	40 40 40 40 40 40	0	6	240	40 40 40 40 40 40	0
青森東	7	280	40 40 40 40 40 40 40	7	280	40 40 40 40 40 40 40	0	7	280	40 40 40 40 40 40 40	0
青森東・平内	1	40	40	1	40	40	0	1	40	40	0
青森北	6	240	40 40 40 40 40 40	6	240	40 40 40 40 40 40	0	6	240	40 40 40 40 40 40	0
青森北・今別	1	40	40	1	40	40	0	1	40	40	0
青森南	6	240	40 40 40 40 40 40	6	240	40 40 40 40 40 40	0	6	240	40 40 40 40 40 40	0
青森中央	5	200	40 40 40 40 40	5	200	40 40 40 40 40	0	5	200	40 40 40 40 40	0
青森戸山	6	230	40 40 40 40 40 30			募集停止	△6				0
浪岡	3	105	35 35 35	2	70	35 35	△1	2	70	35 35	0
青森工業	8	280	35 35 35 35 35 35 35 35	7	245	35 35 35 35 35 35 35	△1	7	245	35 35 35 35 35 35 35	0
青森商業	6	240	40 40 40 40 40 40	6	240	40 40 40 40 40 40	0	6	240	40 40 40 40 40 40	0
地区計	62	2,415		54	2,115		△8c1 △300人	54	2,115		0c1 0人

学級減のみで対応した場合の学校規模の見込

< H 3 9 >

5学級 … 4校  
 4学級 … 4校  
 2学級 … 1校  
 1学級 … 2校

※学級数の多い学校から学級減を行い対応した場合の見込



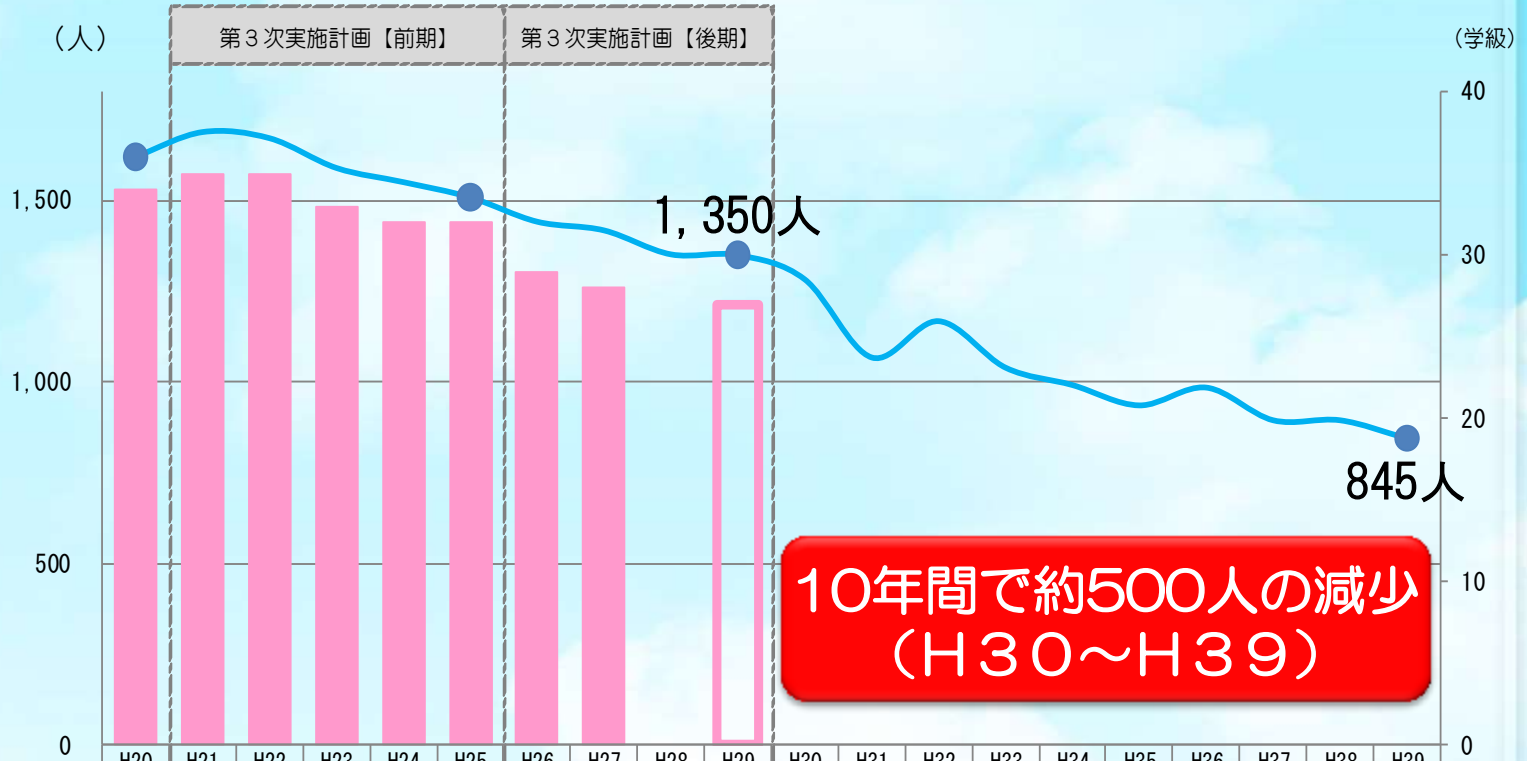


# (3) 今後の中学校卒業予定者数の推移等 (各地区)

## 【西北地区】①

(中学校卒業(予定)者数と学級数の推移)

※ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



10年間で約500人の減少  
(H30~H39)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
— 中学校卒業(予定)者数	1,621	1,689	1,672	1,590	1,551	1,509	1,442	1,418	1,352	1,350	1,283	1,068	1,168	1,040	992	936	985	895	895	845
■ 学級数	34	35	35	33	32	32	29	28		27										
	H25までの増減 (対H20)						H29までの増減 (対H25)				H39までの増減 (対H29)									
中学校卒業(予定)者数	△112人						△159人				△505人									
学 級 数	△2c1						△5c1				△8 CL~△10CL									



# (3) 今後の中学校卒業予定者数の推移等 (各地区)

## 【西北地区】②

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出した。

(各学校の規模の推移)

■ 普通科等   ■ 職業学科   ■ 総合学科

平成20年度				4cl		6cl			
学校名	学級数	募集人数							
五所川原	5	200	40	40	40	40	40		
金木	2	70	35	35					
木造	6	240	40	40	40	40	40	40	
木造・深浦	1	40	40						
鱒ヶ沢	3	105	35	35	35				
板柳	3	105	35	35	35				
鶴田	2	70	35	35					
中里	2	70	35	35					
五所川原農林	5	175	35	35	35	35	35		
五所川原工業	5	175	35	35	35	35	35		
地区計	34	1,250							
増減									

平成25年度				4cl		6cl			
学校名	学級数	募集人数							
五所川原	6	240	40	40	40	40	40	40	40
金木	2	70	35	35					
木造	5	200	40	40	40	40	40	40	
木造・深浦	1	40	40						
鱒ヶ沢	2	70	35	35					
板柳	3	105	35	35	35				
鶴田	2	70	35	35					
中里	2	70	35	35					
五所川原農林	5	175	35	35	35	35	35	35	
五所川原工業	4	140	35	35	35	35	35		
地区計	32	1,180							
増減	△2cl	△70人							

平成29年度 (第3次実施計画より)				4cl		6cl			
学校名	学級数	募集人数							
五所川原	5	200	40	40	40	40	40	40	△1
金木	2	70	35	35					0
木造	4	160	40	40	40	40	40	40	△1
木造・深浦	1	40	40						0
鱒ヶ沢	2	70	35	35					0
板柳	2	70	35	35					△1
鶴田	2	70	35	35					0
中里	1	40	40						△1
五所川原農林	4	140	35	35	35	35	35	35	△1
五所川原工業	4	140	35	35	35	35	35	35	0
地区計	27	1,000							
増減	△5cl	△180人							

学級減のみで対応した場合の学校規模の見込

< H 3 9 >  
 2学級 … 8校  
 1学級 … 2校

※学級数の多い学校から学級減を行い対応した場合の見込

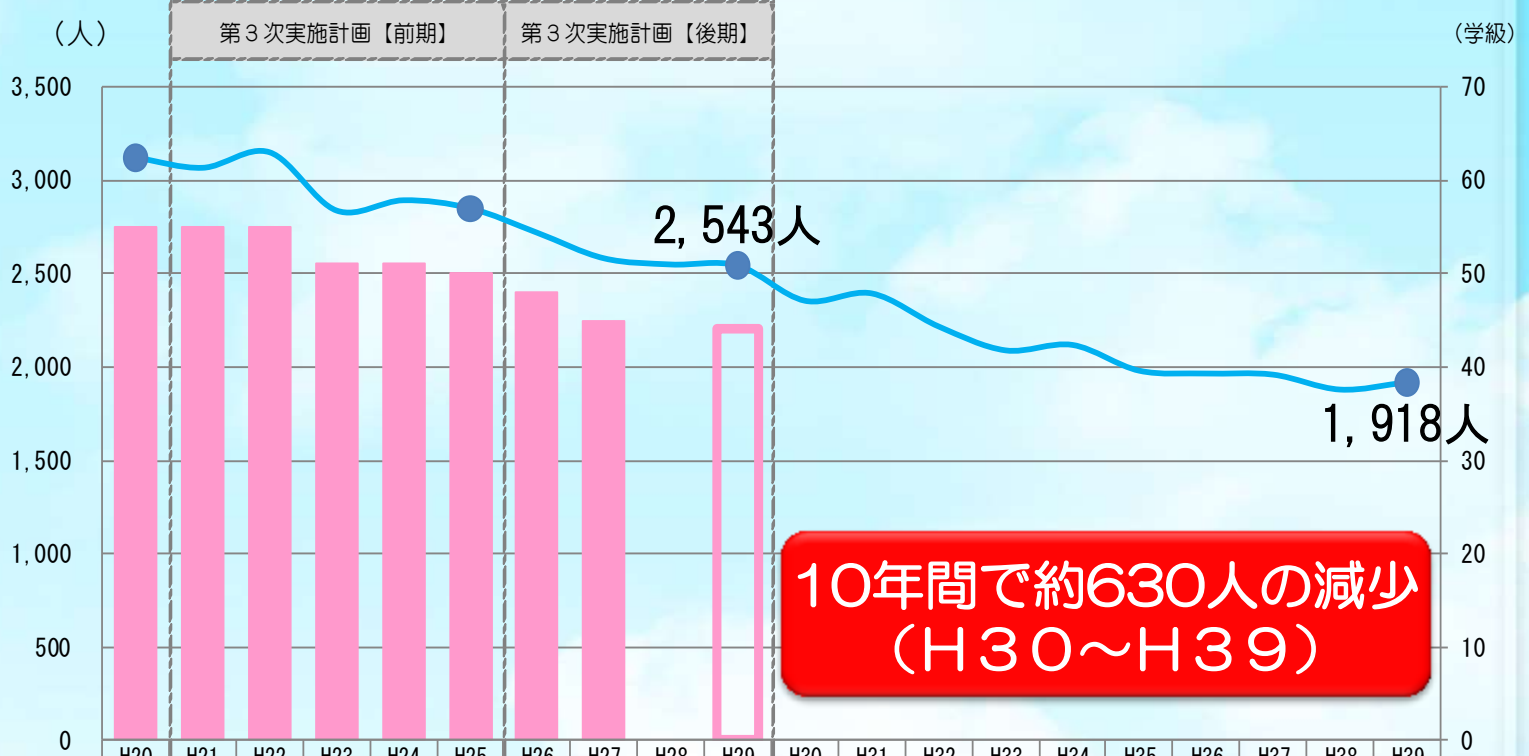


# (3) 今後の中学校卒業予定者数の推移等 (各地区)

## 【中南地区】①

(中学校卒業 (予定) 者数と学級数の推移)

※ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



**10年間で約630人の減少  
(H30~H39)**

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
— 中学校卒業 (予定) 者数	3,122	3,067	3,150	2,838	2,893	2,850	2,719	2,582	2,549	2,543	2,355	2,394	2,217	2,089	2,118	1,980	1,965	1,959	1,879	1,918
■ 学級数	55	55	55	51	51	50	48	45		44										
	H25までの増減 (対H20)						H29までの増減 (対H25)				H39までの増減 (対H29)									
中学校卒業(予定)者数	△272人						△307人				△625人									
学 級 数	△5c1						△6c1				△9CL~△11CL									



# (3) 今後の中学校卒業予定者数の推移等 (各地区)

## 【中南地区】②

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出した。

(各学校の規模の推移)

■ 普通科等   ■ 職業学科   ■ 総合学科

学校名	平成20年度		学級数						増減
	学級数	募集人数	4c1	6c1	4c1	6c1	4c1	6c1	
弘前	7	280	40	40	40	40	40	40	0
弘前中央	6	240	40	40	40	40	40	40	0
弘前南	6	240	40	40	40	40	40	40	0
弘前南・大鱈	1	40	40						0
岩木	3	105	35	35	35				△1
黒石	5	200	40	40	40	40	40	0	
尾上総合	2	80	40	40					△2
柏木農業	4	140	35	35	35	35			0
弘前工業	8	280	35	35	35	35	35	35	△1
弘前実業	8	320	40	40	40	40	40	40	0
弘前実業・藤崎	1	40	40						0
黒石商業	4	160	40	40	40	40			0

地区計  
増減  
55 2,125

学校名	平成25年度		学級数						増減
	学級数	募集人数	4c1	6c1	4c1	6c1	4c1	6c1	
弘前	7	280	40	40	40	40	40	40	0
弘前中央	6	240	40	40	40	40	40	40	0
弘前南	6	240	40	40	40	40	40	40	0
弘前南・大鱈									募集停止 △1
岩木	2	70	35	35					△1
黒石	5	200	40	40	40	40	40	0	
尾上総合									募集停止 △2
柏木農業	4	140	35	35	35	35			0
弘前工業	7	245	35	35	35	35	35	35	△1
弘前実業	8	320	40	40	40	40	40	40	0
弘前実業・藤崎	1	40	40						0
黒石商業	4	160	40	40	40	40			0

50 1,935  
△5c1 △190人

学校名	平成29年度 (第3次実施計画より)		学級数						増減
	学級数	募集人数	4c1	6c1	4c1	6c1	4c1	6c1	
弘前	6	240	40	40	40	40	40	40	△1
弘前中央	6	240	40	40	40	40	40	40	0
弘前南	6	240	40	40	40	40	40	40	0
弘前南・大鱈									0
岩木									募集停止 △2
黒石	4	160	40	40	40	40			△1
尾上総合									0
柏木農業	4	140	35	35	35	35			0
弘前工業	7	245	35	35	35	35	35	35	0
弘前実業	7	280	40	40	40	40	40	40	△1
弘前実業・藤崎									募集停止 △1
黒石商業	4	160	40	40	40	40			0

44 1,705  
△6c1 △230人

学級減のみで対応した場合の学校規模の見込

< H 3 9 >  
5学級 ... 2校  
4学級 ... 6校

※学級数の多い学校から学級減を行い対応した場合の見込

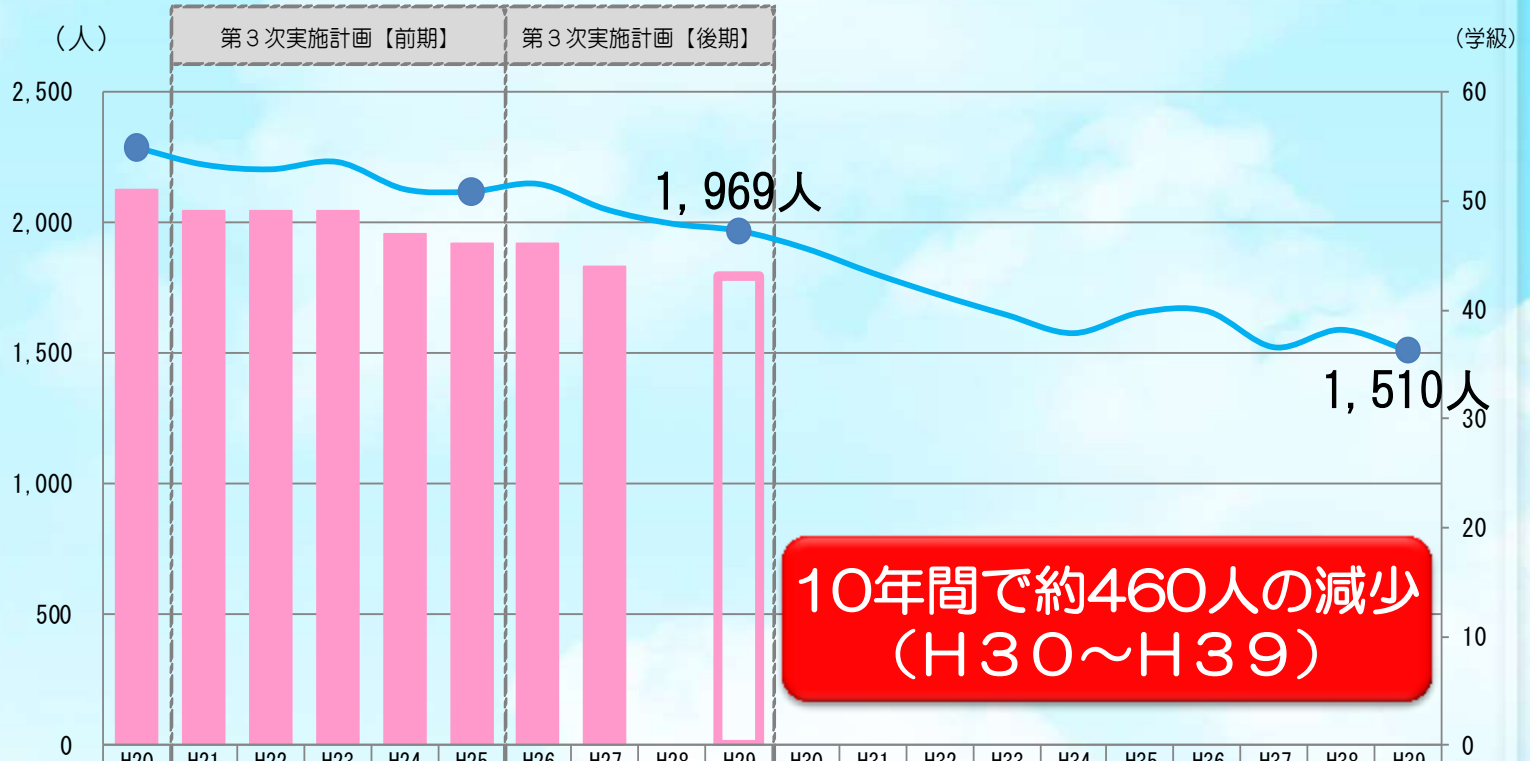


# (3) 今後の中学校卒業予定者数の推移等 (各地区)

## 【上北地区】①

(中学校卒業 (予定) 者数と学級数の推移)

※ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



10年間で約460人の減少  
(H30~H39)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
— 中学校卒業 (予定) 者数	2,287	2,222	2,204	2,232	2,128	2,119	2,148	2,052	1,996	1,969	1,901	1,807	1,723	1,647	1,577	1,656	1,661	1,523	1,590	1,510
■ 学級数	51	49	49	49	47	46	46	44		43										
	H25までの増減 (対H20)						H29までの増減 (対H25)				H39までの増減 (対H29)									
中学校卒業(予定)者数	△168人						△150人				△459人									
学 級 数	△5c1						△3c1				△8CL~△10CL									





# (3) 今後の中学校卒業予定者数の推移等 (各地区)

## 【上北地区】②

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出した。

(各学校の規模の推移)

■ 普通科等 ■ 職業学科 ■ 総合学科



学級減のみで対応した場合の学校規模の見込

- < H 3 9 >
- 4学級 ... 4校
  - 3学級 ... 4校
  - 2学級 ... 3校

※学級数の多い学校から学級減を行い対応した場合の見込

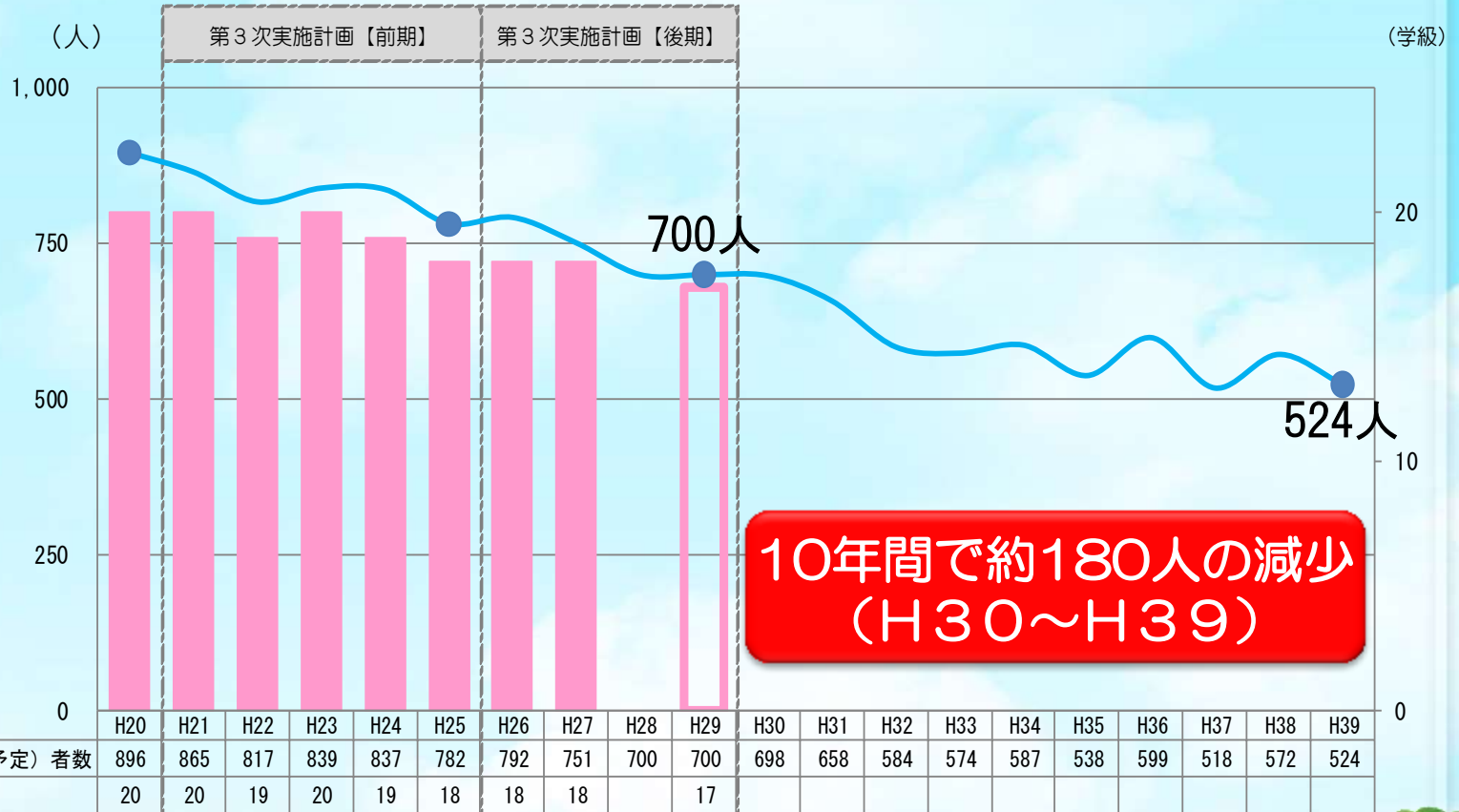


# (3) 今後の中学校卒業予定者数の推移等 (各地区)

## 【下北地区】①

(中学校卒業 (予定) 者数と学級数の推移)

※ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



10年間で約180人の減少  
(H30~H39)

	H25までの増減 (対H20)					H29までの増減 (対H25)				H39までの増減 (対H29)									
中学校卒業(予定)者数	△114人					△82人				△176人									
学級数	△2c1					△1c1				△3CL~△5CL									



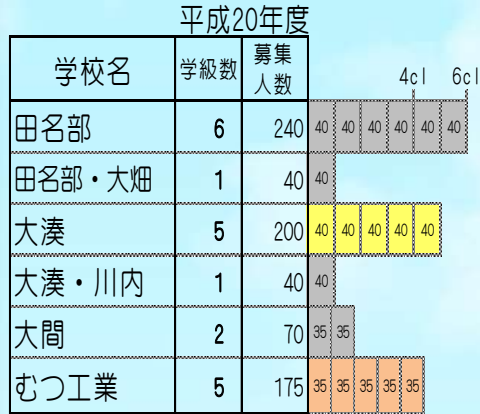
# (3) 今後の中学校卒業予定者数の推移等 (各地区)

## 【下北地区】②

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出した。

(各学校の規模の推移)

■ 普通科等   ■ 職業学科   ■ 総合学科



地区計      20    765  
増 減



18    685  
△2c1   △80人



17    650  
△1c1   △35人

学級減のみで対応した場合の学校規模の見込

- < H 3 9 >
- 4学級 … 1校
  - 3学級 … 2校
  - 2学級 … 1校
  - 1学級 … 1校

※学級数の多い学校から学級減を行い対応した場合の見込

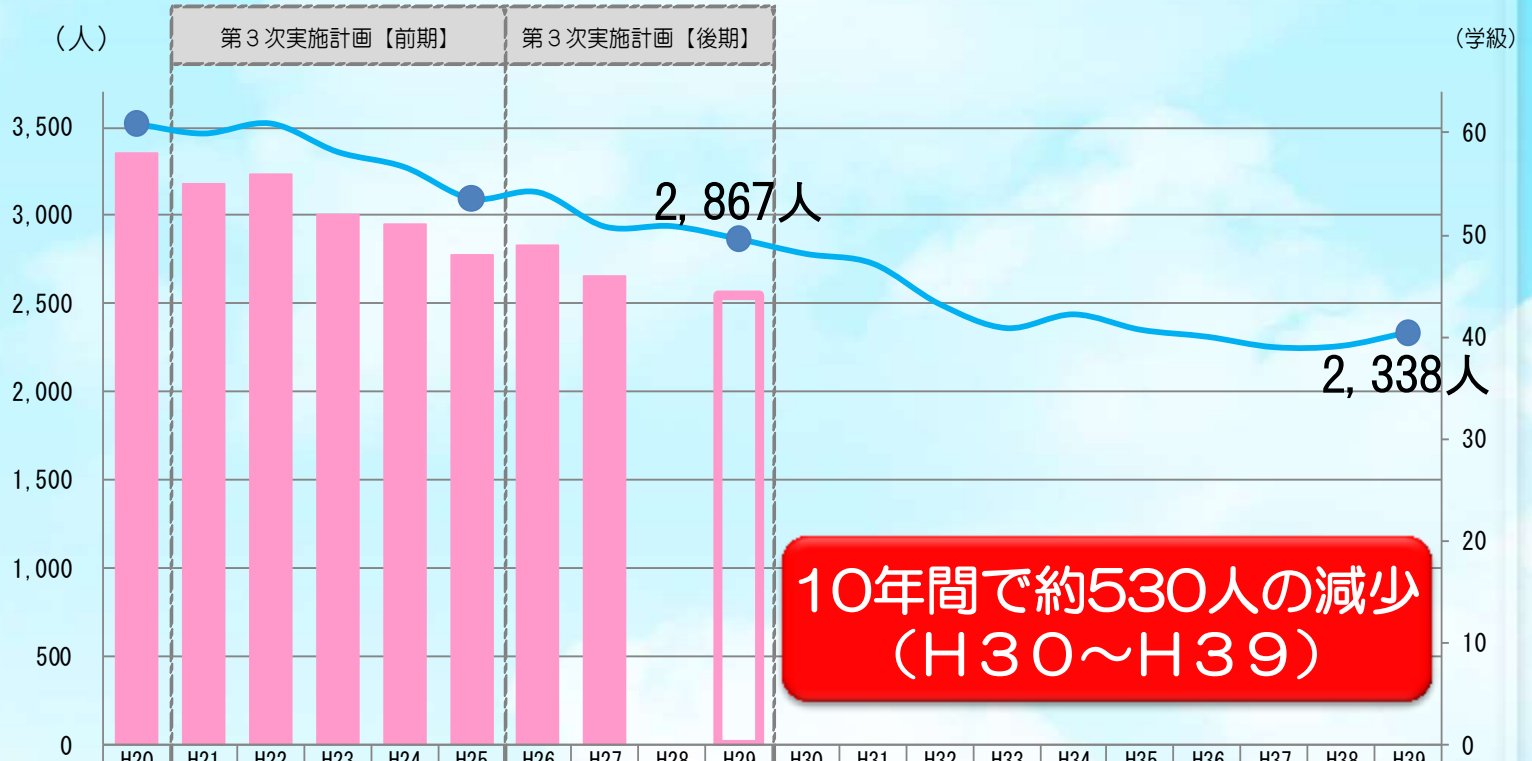


# (3) 今後の中学校卒業予定者数の推移等 (各地区)

## 【三八地区】①

(中学校卒業 (予定) 者数と学級数の推移)

※ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



10年間で約530人の減少  
(H30~H39)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
— 中学校卒業 (予定) 者数	3,519	3,465	3,522	3,361	3,275	3,096	3,132	2,937	2,940	2,867	2,783	2,728	2,498	2,362	2,440	2,353	2,313	2,254	2,261	2,338
■ 学級数	58	55	56	52	51	48	49	46		44										
	H25までの増減 (対H20)						H29までの増減 (対H25)				H39までの増減 (対H29)									
中学校卒業(予定)者数	△423人						△229人				△529人									
学 級 数	△10c1						△4c1				△6CL~△8CL									



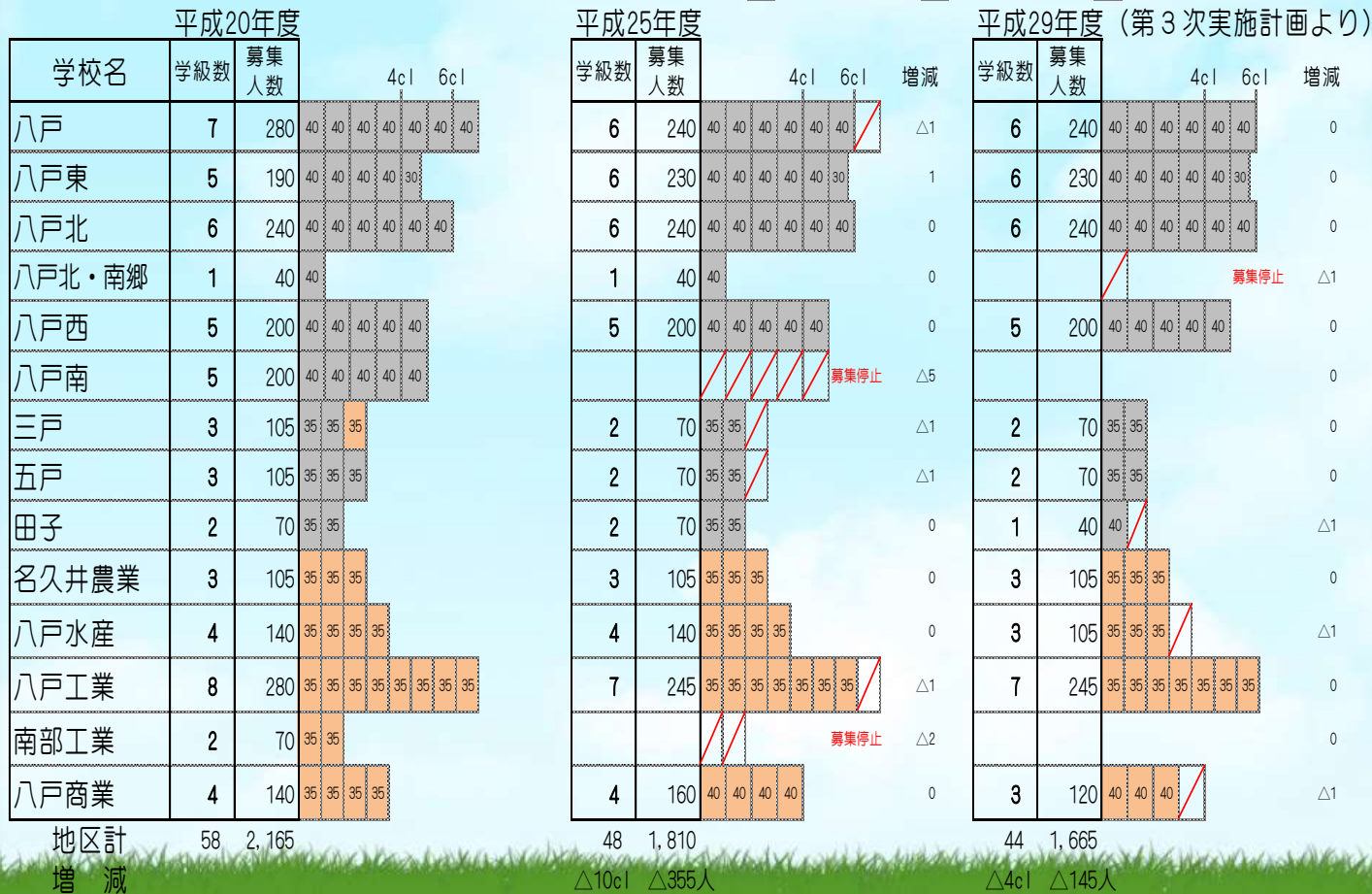
# (3) 今後の中学校卒業予定者数の推移等 (各地区)

## 【三八地区】②

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出した。

(各学校の規模の推移)

■ 普通科等 ■ 職業学科 ■ 総合学科



学級減のみで対応した場合の学校規模の見込

< H39 >

- 5学級 ... 3校
- 4学級 ... 2校
- 3学級 ... 3校
- 2学級 ... 2校
- 1学級 ... 1校

※学級数の多い学校から学級減を行い対応した場合の見込





## (4) 魅力ある高校づくりに向けて

### 学校・家庭・地域等との連携の推進

- 高校間の連携
- 特別支援学校との連携                      等

### 教育活動の充実に向けた取組

- 各学校の魅力化と情報発信
- 教員の資質向上と教職員定数の改善                      等

### 本県高校教育の充実に向けた継続的な検証

- 平成30年度以降の次期計画を策定・推進する際は、それまでの成果や有効性を継続的に検証





### 3 将来構想検討会議の今後の予定



## 中間まとめに関する意見募集

《平成27年7月28日～9月10日》



各地区の学校配置等に関する基本的な方向性  
について検討



## 答 申

《平成28年1月》

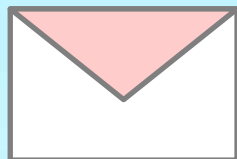


## 新たな計画の策定へ



# 中間まとめに関する意見を募集中です！

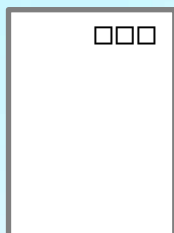
<9月10日（木）まで>



これから高校に入学するお子さんたちに直接  
かかわることです。

ぜひ、皆様のご意見をお聞かせください！

E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp



〒030-8540 青森市新町2-3-1  
青森県教育庁高等学校教育改革推進室

FAX 017-734-8267

青森県 高校教育改革

検索



[http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/highschool\\_portal.html](http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/highschool_portal.html)



本日は、地区懇談会に御出席いただき、

ありがとうございました。





青森県立高等学校将来構想検討会議では、広く県民の皆様から「青森県立高等学校将来構想検討会議におけるこれまでの検討状況（中間まとめ）」に対する御意見・御感想をいただき、平成28年1月の答申に向けて審議を重ねたいと考えております。

つきましては、次の宛先まで、御意見・御感想をお寄せくださるようお願いいたします。

◇御意見・御感想の宛先

〒030-8540 青森市新町2-3-1

青森県教育庁高等学校教育改革推進室

電話 017-734-9866

FAX 017-734-8267

メールアドレス E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp

◇検討状況等については、次のホームページを参照ください。

<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/kentoukaigi.html>